

北海道

北海道札幌市立二条小学校長 中橋理子

今年度北海道は公立小・中・特別支援学校の女性校長 153 名、教頭 178 名でスタートした。学校の統廃合が進む中、増加はなかなか難しいのが現状である。しかし、全道 15 地区、小・中・特別支援学校の連携で情報交流や職能の向上に努めている。40 周年を迎えた本会は 8 月に全道研究大会上川大会を道北の中心都市旭川市で開催した。全体会では校長提言、教頭提言による研究協議や上川地区による情報提供を行い、小グループによる研修では校長部会、教頭部会にわかれたワークショップ形式での分科会・分散会と校長・教頭合同部会の特別部会で話し合いが進められた。約 200 名の会員が参集し、熱気あふれる研究大会となった。また、全国研究協議大会は来年度奈良大会の次が、いよいよ北海道大会となる。大会成功に向けて全会員の思いを一つに取組を進めているところである。

青森県

青森県十和田市立東小学校長 新戸部靖子

新任校長 8 名を迎え、会員 63 名でスタートした。県内 6 地区がそれぞれ年間活動計画に沿って研修や学習会などを行っているが、8 月には全会員が一堂に会して総会及び研究協議会を開催している。今回も全国研究協議大会主題のもと、西北地区が『教職員の参画意識を高め組織の活性化を図る学校経営』と題して話題提供した後、グループ毎に研究協議が行われた。また、つがる市フィルムコミッション会長川嶋大史氏が「映画と地域づくり」という題で講演を行い、青森県は「飢餓海峡・火宅の人」など多くの作品が県内全域で撮影される“映画王国”であると話され故郷再発見となった。更に、学校教育課伊藤直樹氏の「本県の小中学校教育の現状と課題を踏まえた学校教育の在り方」の講話もあり、実り多い研修会であった。今後も、学校経営力の向上を目指した研修の充実を図っていきたい。

秋田県

秋田県大館市立城西小学校長 庄司裕見子

本県公立小・中学校女性校長会は、昇任者 7 名を加え、会員 72 名（小 63 名、中 9 名）と昨年度より 10 名減ではあるが加入率 100%の組織を維持している。統廃合により学校数 14 校減というなかで、女性校長の割合は、小学校 27%・中学校 7%とほぼ横ばい状態を保っている。

今年度は、5 月の第三土曜日に秋田県立農業科学館を会場に総会及び研修会を開催した。研修会では、国立大学法人秋田大学前理事・副学長 吉岡尚文様から「社会にとっての法医学の必要性とは」と題した講演を拝聴した。これまで聞く機会のなかった法医学の世界を垣間見ることができた。

県内 3 ブロック 9 地区では、これまで様々な研修や情報交換等を通して交流を深めてきたが、会員数の減少により、北と南ブロックでは 3 地区を 1 地区に統合することで組織の強化を進めている。

山形県

山形県山形市立宮浦小学校長 片桐理子

今年度は3名の新任校長を迎え、小学校37名、中学校1名、合計38名でスタートした。この数は、5年前と比べても3割減という厳しい数値である。なお今年度10名の退職者を予定しており、女性校長会のさらなる連携と充実そして後進の指導と、より一層の環境整備が求められている。

年1回の研修会は、前県教育庁義務教育課長（現山形三小校長）酒井智子様より「担任力と学校課題」のテーマで講話をいただいた。続く総会は現状認識をふまえ、本会の活動意義を再確認した。

自薦制度3年目を迎え、管理職に挑戦する女性教諭が減少しており、教頭も含めた研修の場にしていく方向性も考えられる。女性管理職・女性教員の資質と地位向上を目指し、会員相互の親睦を図りながら活動していきたい。

福島県

福島県須賀川市立第一小学校長 八木沼 智恵子

本県は、4月に定期人事異動実施され、新たに16名（小学校14名、中学校2名）の近年にない大人数の新会員を迎え、87名の会員数により、福島県公立女性校長会のスタートし、4月21日に「総会・研修会」を開催した。この研修会では、郡山市教育委員会教育長の木村孝雄様をお迎えし、「私が歩み続ける教育の道」と題して講話をいただいた。教育長メッセージ「まちづくりは人づくり」の指針のもと、「教育は人なり」の言葉どおり、熱く語っていただいた。今年度は、全国大会発表を踏まえ、全会員でその任を果たせるようなプレ発表を行い、よりよい福島県ならではの発表内容にできるよう研修を深めた。震災前に戻ることは、当然無理な現状ではあるが、この現状に甘んずることなく不満足をバネに夢・理想を追い求めながら、会員の資質向上に取り組んでいきたい。

茨城県

茨城県取手市立取手小学校長 濱野 一美

本県では「茨城県女性校長・教頭会」を組織し46年目になる。本年度の会員は、校長106名・副校長1名・教頭119名の計226名、昨年度より1名の増員である。本年度は「豊かな人間力をはぐくむ学校経営」「新しい教員評価・新人事評価の実践研究および指導力・評価力の向上と後輩育成」「管理職のリーダーシップと新学習指導要領に基づく教育活動の推進」の3点を活動の重点課題としている。

5月の総会および歓送迎会では、県教育庁義務教育課長様より「教員の資質の向上」等についてのご講演をいただいた。7月には、5分散会による実践発表と研究協議会を実施し、熱気あふれる有意義な研修会となった。11月には講演会を予定している他、県内5ブロック毎の研修会も充実している。さらに、会報誌「野ばら」を年2回発行し、会員の研鑽に寄与している。

栃 木 県

栃木県野木町立新橋小学校長 加藤 純子

本県は、「栃木県女性校長教頭会」を組織し、会員 308 名（校長 107 名、教頭 201 名）で管理職としての職能向上のため、研修の充実と会員相互の連携を図っている。

5 月には定期総会と全体研修会を開催し、総合教育センター所長様より「管理職のあり方」について講話をいただいた。また、7 月開催の関東地区公立小・中学校女性校長会総会及び研究協議会栃木大会に向け、実行委員会を中心に、教頭の協力も得ながら一丸となって開催準備に努めてきた。大会には、関東各県より 228 名の皆様にご参会いただき、3 分科会のテーマに沿って研究協議を深め、さらに、いわむらかずお氏のご講演、渡邊弘教授の指導講評により、視野の拡大と識見を高めることもできた。今後も、大会の計画運営によって深まった会員相互の絆をより強固にし、一層の向上をめざしたい。

群 馬 県

群馬県前橋市立若宮小学校 根井 時子

本県女性校長会は、64 名（新会員 16 名）でスタートした。今年度、退職会員は 17 名で新旧交代は 25%強となり、昨年度に引き続き同様な傾向となった。また、新任教頭は 13 名であり、女性管理職は微増状況にある。5 月の総会では研修方針・事業計画・予算、各案を承認し、情報交換に努め各学校が特色ある経営を行っていくことを確認した。本県には、昭和 50 年に発足した女性管理職・行政職の現職者及び退職者で構成する「群照会」（会員 431 名）があり、本県の教育の振興に寄与することを目的に活動を続けている。6 月には研修会で、群馬県教育委員会教育長の吉野勉様にご講演をいただき、教育への熱い思いを伺った。その後は、会誌・会報の発行による情報の共有化や県内 4 ブロックに分かれた研修会の開催による会員の職能成長に向けた取組を展開している。

埼 玉 県

埼玉県草加市立両新田小学校長 須山 恵子

本県では「埼玉県公立小・中学校女性校長会」を組織している。本年度の会員数は、小学校長 106 名、中学校長 4 名の計 110 名で、昨年度より 9 名の減員でスタートした。本年度の主な活動としては、5 月に県教委、県小・中学校長会の各会長等の臨席の下、定期総会並びに講演会を実施した。総会後は、県教委市町村支援部部長大澤利彦様のご講演に続き会員相互の親睦会を行った。8 月には「女性校長・教頭合同研究協議会」を開催し、東京成徳短期大学教授和田信行様のご講演、午後からは 4 分科会に分かれテーマに基づいた研究協議を通して女性校長・教頭が共に学び合いを深める研修になった。12 月には「退職・現職合同研究協議会」会報誌「さきたま」の発行等を予定している。

今後も会員相互の絆を深め、女性管理職としてより一層感性を磨き合い研鑽を積んでいきたい。

千葉県

千葉県印西市立小倉台小学校長 小島 喜美代

本県では、「千葉県女性校長教頭指導主事等の会」を組織し、校長・教頭・行政関係者の資質と職能の向上を図るため、年間2回の全体研修会と県下6ブロック14地区ごとの地区別研修会を開いて活動している。今年度は、新任校長25名、教頭40名、指導主事42名を加え、444名の会員でスタートした。

夏・冬に行われる全体研修会では、管理職としての見識を高め、連携を強めるために、講演会・講話・地区報告会を行っている。7月の研修会では、南こうせつさんの実兄である勝光寺住職南慧昭氏を招き、「心の健康」をテーマに新しい感覚の楽しい説法をいただいた。その後、県教育庁と千葉市教育委員会講師より今日的教育課題について講話を拝聴した。冬季研修会と併せて研鑽に努めている。

神奈川県

神奈川県横浜市立洋光台第三小学校長 坂 千枝

本年度は、校長277名、教頭・副校長393名、総勢670名の会員でスタートした。学校数1292校に対して女性校長の割合は21.4%、教頭・副校長の割合は30.4%となっている。

主な活動として、5月には、横浜港が一望できる会場で総会・研修会・懇親会を開催した。県子ども教育支援課より「平成24年度の教育課題について」と題した講演をしていただき、学校管理職としての資質を磨き、学校運営に邁進する気持ちの一つにすることができた。

秋の研修会は、川崎市を会場として、日本映画大学：高橋世織氏、俳優：中本賢氏の講演と東京交響楽団による弦楽四重奏の鑑賞により管理職としての見識を高めた。

また、会報「やまゆり」は24号の発刊となり、各地区の先輩諸姉との情報交換の場となっている。

東京都

東京都江東区立第五砂町小学校長 遠藤 朋子

東京都公立小学校女性校長会では、今年度21名の新会員を迎え、149名の会員でスタートした。5月の総会では、女性管理職を増やすことと、女性管理職の資質の向上を図るための研修を充実していくことを確認した。その後の歓送迎会では、先輩校長に恒例となったオリジナルハンドバッグを贈呈し、感謝の気持ちを表した。7月には、面接練習を中心とした管理職受験者対応夏季研修会を開いた。9月には和泉流宗家代表取締役の和泉節子氏を講師にお招きして、講演会を開いた。和泉節子氏は狂言師・和泉元彌氏の母親であり、その二人の姉を初の女性狂言師として育て上げたことはご存知の通りである。「伝統・文化 狂言の世界」の演題のもと、笑いあり、ほろっとする場面あり、「伝承・普及」をキーワードにあっという間の講演会であった。12月には小・中合同研修を予定している。

新潟県

新潟県上越市立柿崎小学校長 山下 優子

本年度の新潟県公立小・中学校女性校長会は、新任校長 11 名を迎え、小学校長 94 名、中学校長 6 名、特別支援学校長 1 名、指導主事等 8 名の合計 109 名でスタートした。会員数は僅かずつ増加しており、小・中・特別支援学校数に占める女性校長の割合は 12.9%となった。

本会は、全体研修・地区研修を活動の柱として、管理職としての資質力量の向上と職能の錬磨及び会員相互の連帯を図っている。4 月には総会・全体研修会を実施し、新潟県教育委員会義務教育課長及び新潟市教育委員会教職員課長から指導をいただいた。各地区研修会では、教頭にも案内し、教育事務所長から重要な教育課題について講話をいただいたり、情報交換を行ったりして、共に研鑽を積んでいる。3 月には新人研修会を開催し、管理職としての在り方等について研修を行う予定である。

富山県

富山県高岡市立伏木小学校長 古市 幸子

本県では、「富山県公立小・中学校女性校長会」を組織し、会員相互の研修と連携により、女性校長の職能を高め、学校教育の振興を図ることを目的に活動している。今年度は小学校長 69 名（新 10 再 4 名）中学校長 7 名（新 1 名）の 76 名でスタートした。本年度の小中学校の全校長数に占める女性の割合は、27.6%となっている（小学校 35.4%、中学校 8.8%）。学校数は小中あわせて昨年より 2 校の減となったが、女性校長は 2 名増加した。女性校長会の主な活動は、全県で行う全体研修会（年 3 回：中部地区大会を含む）と 7 地区ごとに行う地区別研修会（年 1 回）である。1 月には、元富山県立しらとり支援学校長の嘉義陽子氏を講師に迎え、全体研修会を行う予定である。これからも会員相互の絆を深め、信頼される学校経営の実践に向けて、校長としての力量を高めていきたい。

石川県

石川県金沢市立夕日寺小学校長 志水 邦子

本県では、県公立小・中学校女性校長・教頭会を組織し、会員相互の連携や女性管理職としての教養と職務向上を目指し研鑽を積んでいる。本年度の会員数は、校長 67 名（20.6%）、教頭 92 名（28.3%）であり、登用の割合は、前年度に比べ校長の登用が増加している。（前年度校長任用 48 名 14.1%）

年 3 回の研修会を企画し、第 1 回は、「学校安全管理」、第 2 回は「コミュニケーション」の講演会を行った。第 3 回は、「幼保・小中連携」における貴重な示唆をいただいた。また、その中で小中学校、校長・教頭合わせて 4 校の実践報告会も行った。さらに、今年度は退職校長会から OB をお招きし、女性管理職登用の厳しい道のりと気概についての講演会を企画し、女性管理職の責任の重さと後進を育てる意味を再確認することができた。今後も全会員が研鑽を深め、信頼される学校運営に励みたい。

福 井 県

福井県福井市立河合小学校長 山 本 久 美

本年度の本県女性校長・教頭会は、昨年度より9名減の、校長52名、教頭80名、計132名である。県は第2次男女共同参画計画を策定し、女性リーダーの出やすい社会づくりの推進を示し、女性の進出に数値目標を設定しているが、女性管理職の割合は23.5%で、前年を0.6%下回った。

本年度は、8月の全国研究協議大会並びに中部地区大会の成功を目標として、全員が一丸となって実行委員会の活動を進め、準備に努めてきた。全国から約650名の参加を得、大会を無事に終えることができ、大きな充実感を得ることができた。皆様の温かく力強いご支援・ご協力に心から感謝申し上げたい。大会終了後は、大会特集号の作成、会計の処理等を終え、12月に実行委員会を解散した。今後は、後進の育成と県・各支部の研修活動の一層の充実に力を注ぎ、本研究会の発展を図りたい。

山 梨 県

山梨県笛吹市立石和西小学校長 極楽寺 眞理子

本県は「山梨県公立小中学校現職女性管理職の会」を組織し、会員（校長23名、教頭27名、計50名）相互の連携を深めるとともに、女性管理職としての資質の向上を図っている。今年度は、新校長4名、新教頭9名（行政相当職2名）という状況である。会員数の減少傾向に危機感をもち、「山梨県小中学校現職退職女性管理職の会（若葉会）」と常に連携協力する中で、次代を担う女性管理職の育成と登用に向けての陳情活動を行っている。今年度の若葉会夏季学習会においては、神社・仏閣等の見学の他に新しい試みとして「小笠原流礼法」を学んだ。先輩女性管理職が教育長を務める市教育委員会で学校教育指導重点に「伝統文化や小笠原流礼法の体験を生かした心の育成」を掲げ、今年度は教職員への研修を中心に取り組んでいる。現職の会の研修も、充実した取組を展開している。

長 野 県

長野県岡谷市立岡谷小学校長 花 岡 ひさ江

本年度17名の新任校長19名の新任教頭を加え、女性校長65名（11%）、女性教頭90名（15%）である。他に行政職への登用が校長職相当2名教頭職相当2名の計4名ある。先輩の努力や県教育委員会の女性登用への配慮により着実に登用率を伸ばしている。

県内10地区での地区別研修会、先輩との懇談会等を実施し、職能向上・視野の拡大・専門性の向上に向けて自己研鑽に努めている。とりわけ年1回の県女性校長教頭合同研修会と歴代の女性校長・教頭と現職の女性管理職の合同研修会（りんどう会）を大切な研修の機会と位置付けている。男女共同参画推進協議会による新たな登用目標が示され、働き続ける環境の整備、意識改革が求められている。女性教職員を計画的にキャリアアップし、実質的に女性管理職登用の向上に努めていきたい。

岐 阜 県

岐阜県岐阜市立鷺山小学校長 村 下 香 苗

今年度、本県の女性校長会会員数は66名（小学校長58名、中学校長8名）で活動している。行政職6名を含めると72名となり少しずつ増加傾向にある。また教頭職は、行政職14名を含めると全部で136名と増えており、女性管理職登用が順調に向上してきている。また、県教育委員会・市町の教育委員会の管理職ポストや指導主事として女性の登用が定着してきている。

女性校長会の活動として5月の県女性校長会総会を受け、県内6地区ごとに地区の実情を踏まえながら女性管理職研修会が開催され活動の充実と組織の強化に努めている。県としても総会では県教育委員会義務教育総括監の講演会、秋には県教育長との懇談会をもつなど、行政との連携を深めながら女性教職員を計画的にキャリアアップし、実質的に女性管理職登用の向上に努めている。

静 岡 県

静岡県富士市立富士中央小学校長 鈴 木 紀久子

本県では、「静岡県女性校長会」を組織し、学校経営力の向上とともに女性管理職の育成、女性教職員の資質と地位の向上を目指して研鑽を積んできた。全員が一堂に会しての研修会は年1回とし、今年度は県教委教育政策課長様による講演をいただいた。また、各地区の主体的な取り組みを重視し、成果を上げてきた。それらの成果は、年度末、全会員に文書で報告し、次なる実践につなげている。

本年度の女性校長は104名である。行政を含めた校長職の割合は13.5%であり、数年ほぼ横ばい状態である。また、教頭職の割合が13.3%と増減を繰り返し、裾野が広がっていかない。女性管理職登用の増加を図るため、力量のある女性教員の経験値を上げる校内外人事や男性・女性の意識改革を進めていく。さらに、県教育長をはじめとする関係諸機関への働きかけを継続していきたい。

愛 知 県

愛知県愛西市立立田北部小学校長 松 川 孝 子

愛知県の女性管理職者数は、校長160名、教頭231名で、登用率は校長12.0%、教頭17.8%である。昨年度より、校長が5名、教頭が10名増加した。本県の活動は、5月に総会を開き、夏季休業中に管理職研修会を開催している。総会には、来賓として県小中学校長会長をお招きしてご講話をいただいた。教員の指導力向上のための校長のリーダーシップの在り方や、女性校長会のこれからの活動の視点等をご指導いただき、その後情報交換を行った。また、研修会では、内容を「防災教育」とし、群馬大学大学院教授片田敏孝様より、「想定外を生き抜く力を育む防災教育」と題して、ご講演いただいた。本県では、名古屋・尾張・三河の3地区が女性役職者会を組織するとともに、連携して研修会を開き、学校経営について学び合い、親和共励を深めながら会員の力量向上に努めている。

三 重 県

三重県津市立草生小学校長 島 田 喜美子

当県の女性管理者数は、校長 59 名（小 51 名・中 8 名）、教頭 91 名（小 83 名・中 8 名）の 150 名である。今年度は昨年度を大きく下回る状況である。何とかしたいという思いから県教育委員会の方々と話し合いを持った。また、各地区の理事に市町の教育委員会と話をする機会を持つことを促した。

主な活動は、総会・全体研修会・ブロック地区別研修会と県教育委員会との懇談である。研修テーマを「未来を拓き 心豊かにたくましく生きる人を育成する学校教育の推進」とし、女性管理職の意識高揚と資質の向上に取り組んでいる。今年度の全体研修会において、サービス接遇インストラクターの長谷川さんより「信頼関係構築のためのマナーアップ術」の講演をしていただいた。

滋 賀 県

滋賀県高島市立高島小学校長 栞 原 和 恵

本年度の公立小・中学校女性校長・教頭数は、校長 50 名、教頭 66 名である。ここ数年、女性管理職の数が減少してきており、管理職登用への意欲低下が懸念される。魅力ある女性管理職として研修を深め、実践を重ねると共に、後進の育成にも努めねばならない。

5月の総会・研修会では、「女性の健康と豊かな生き方 ～助産師の立場から～」と題して、齊藤智孝さん（助産師）を講師に迎えて講演していただいた。教育職も他者との関係を大事にしなければならないことから、健康であることが重要なかぎであること、高いモチベーションをもって仕事に向かえる職場環境作りに努力せねばならないことなどをお話くださった。その他、本県では女性管理職OBと現職の合同研修会を開くなど、会員相互の交流の場を持つとともに、研鑽も積んでいる。

京 都 府

京都府南丹市立園部第二小学校長 塩 谷 由美子

本年度、京都府・京都市公立小中学校女性校長会の会員数は、80 名である。京都府・京都市それぞれが女性校長会を組織し、義務教育の充実・発展と女性管理職の資質・向上を目指し、研究と実践を積み重ねてきている。また、女性管理職としての学校経営力を高めるため、毎年、府・市合同で研修会を開催し、実践交流・情報交換等しながら研鑽を積んでいる。今年度は、「子どもの学びを支える教師力と学校力の強化をめざして」「人権教育を基盤にすえた学校経営」と題した 2 人の校長先生のすばらしい実践報告を聞いて学び合い、その後、「生きる力を育む学校経営と校長の指導性」をテーマにした分散会を持ち、それぞれの学校の特色ある取組を紹介したり、校長としてのリーダーシップについて意見を出し合ったりして研修を深めた。

大 阪 府

大阪府東大阪市立永和小学校長 秋 長 栄里子

本年度は、224名の会員数でスタートした。活動主題を「国際社会に寄与する心豊かな児童・生徒を育てる学校教育の推進 ― 新しい時代を拓き、生きる力を育む学校経営 ―」とし、創造的な学校経営を実践する府民の信託に応えうる校長をめざして、会員相互の交流と研鑽に努めている。

7月の研修会では、詩人でエッセイストの里みちこ様から「学くんへの手紙」と題する詩がたりをしていただいた。「ことば」の楽しさ・大切さを再認識するとともに、柔軟で温かい心身を取り戻す一時をもてた。12月には明治大学・神戸製鋼の元ラグビー選手で、現在、子どもの指導にもあたっている南條賢太様にご講演をいただく予定である。

また、全国・近畿の研究協議大会に参加し、女性校長の連携といっそうの資質向上をめざしている。

兵 庫 県

兵庫県神戸市立高倉中学校長 加 登 香 里

平成24年度は、小・中・特の校長156名、教頭137名、指導主事（区市町）101名である。「豊かな心と確かな学力を育み、地域の核となる学校経営」の研修テーマの下、7地区ごとに独自の研修会を運営している。県全体としては、県下7地区の持ち回りで夏季休業中に校長研修会と教頭・指導主事を含む管理職研修会を実施している。近畿大会や全国大会も含め、研修会で提案することで提案者の技量を高め、協議することで互いの研鑽や資質向上に役立っている。

今年度の校長研修会では、兵庫県警の女性警視による圧倒的な男性社会の中での女性管理職の役割を、管理職研修会では、絵本作家の永田萌さんの感性溢れる作品創りの過程にプロ意識の高さを学ぶ機会を得た。協調の中で切磋琢磨し、男女が応分の役割分担ができる社会を目指したい。

奈 良 県

奈良県大和郡山市立郡山南小学校長 馬 場 多佳子

本年度の奈良県公立小・中学校女性校長・教頭会の会員数は、校長32名、教頭24名で、校長については増加したものの教頭が減少したため、総数はほぼ同じである。全体の研修会は年2回、1回目は県教育長 富岡将人氏の講演、2回目は校長・教頭による実践を聴き、女性管理職としての資質を磨くとともに学校経営力の向上に努めている。また、来年度、本県で開催される全国研究協議大会に向けての研修を行った。

いよいよ次年度に迫った第63回全国大会奈良大会並びに近畿地区大会の成功を目指して、56名の会員一人一人が心をひとつに強い意志をもち、知恵を出し合い力を合わせて着々と準備を進めているところである。

和歌山県

和歌山県和歌山市立名草小学校長 山本紀代

和歌山県公立小中学校女性校長教頭会は、校長 30 人、教頭 59 人の会員数 89 人である。定年退職者数の影響もあり、1 昨年は 3 人、昨年は 1 人と 2 年連続して会員数が減少した。

会長は、県内 8 地方の郡市が輪番制でつとめ、年 2 回の理事会・研修会と、夏期休業中の総会・全体研修会を会長の勤務地方で開催している。研修会は、今日的な教育課題に向かう管理職としての力量を高めることを目的に、開催地方の特徴を生かしながら実施している。今年度第 1 回目の研修は、こども科学館で金環日食の講義を受け、約 280 年ぶりの天体ショーを学びに生かすヒントを得ることができた。11 月には、和歌山市で近畿公立小・中学校女性校長会研究協議会和歌山大会を開催し、全体研修会も兼ねる。他府県の皆様からよい刺激が得られると、89 人がひとつになって進めている。

鳥取県

鳥取県鳥取市立醇風小学校長 綾木宏子

本県会員は、小学校長 30 名、中学校長 4 名、特別支援学校長 1 名、副校長 3 名の計 38 名である。数年前は 50 名ほどあった会員が、近年減って来つつある。平成 27 年度の全国研究協議大会に向けて、女性校長の数を増やすための働きかけを行わなければならないと考えているところである。

年 3 回の研修会を計画している。全体研修 2 回と東・中・西各地区での研修 1 回である。夏季研修会では、全国研究協議大会福井大会の報告と講演会を行った。講演会では、講師に鳥取県教育委員会次長の生田文子氏をお迎えし、「女性校長にのぞむもの」という演題で、力強いお話をしていただいた。わたくしたち女性校長に自信と勇気を与えていただいた有意義な時間であった。平成 27 年度に向けては、準備委員会の組織づくりを本年度末までに行いたいと考えている。

島根県

島根県邑智郡邑南町立日貫小学校長 芦矢敦子

本年度、島根県公立小・中学校女性校長会は、4 名の新入会員を迎え、小学校 25 名・中学校 3 名の計 28 名で、昨年度より 1 名の減である。児童数・学校数が減る中で、女性校長の数も減少しており、平成 29 年度予定の中国大会の開催にいささか不安を覚えている。

年 1 回の「総会・研修会」は、世界遺産登録 5 周年を迎えた「石見銀山」のある大田市大森で、8 月に行った。「石見銀山生活文化研究所」の松場登美様の『足元の宝を生かして暮らしをデザインする』と題した講演を聞き、自分の生き方や考え方を見直す機会となった。また、島根県教育長 今井康雄様の講話を伺い、校長としての責務や期待を強く感じると共に、「出雲国風土記」「古事記」「日本書紀」に見られる歴史豊かな島根のよさを改めて認識し、教育に活かしていく必要性を感じた。

岡山県

岡山県岡山市立平島小学校長 藤島知子

平成24年度の岡山県女性校長会は、小学校102名・中学校15名・特別支援学校3名の120名の会員で構成されています。昨年度よりも13名の減という状況ではありますが、本会の下記の活動を中心にして、「元気が出る女性校長会」を追求し、会員が年齢に関係なく和気藹々と楽しく、有意義な時間を共有することができた一年間と感じています。また、全国研究協議大会（福井大会）・中国地区研修大会（山口大会）で得た刺激と感動を県内会員に伝え、各校長のパワー（実践力）に繋げるとともに、女性校長会員に留めることなく、広く本県の教育に生かしていくことを心に誓った一年でした。

○平成24年6月7日（木）第1回岡山県女性校長会総会・研修会（講演）・情報交換会

○平成25年2月4日（月）第2回岡山県女性校長会総会・研修会（講演）

広島県

広島県広島市立東野小学校長 米升美都枝

広島県では「広島県公立小・中学校女性校長会」と「広島県公立小・中学校女性管理職会」を組織し、今年度は校長187名、教頭193名で構成し、資質を磨き学校経営力を高めるよう努めている。

「広島県公立小・中学校女性校長会」は、5月に総会と情報交換会を行い、2月には退職女性校長会との合同研修会と情報交換会を行っている。今年度の研修会は、広島女学院大学学長 長尾ひろみ先生の国際的な視野に立っての教育理念や経営理念、学長としてのリーダーシップ等について、実践を交えながらのご講演をいただく予定である。校長としての在り方をあらためて考える機会としたい。

「広島県公立小・中学校女性管理職会」は、各地区ごとに校長と教頭が合同で、研修会や実践交流会を開催している。

山口県

山口県岩国市立河内小学校長 藤山陽子

本年度の会員数は、小学校56名（18%）、中学校8名（5%）、国立学校副校長1名、行政職2名、計67名となっている。これは、昨年度より8名の減であり、会員の減少が続いている。

今年度は、毎年夏季に実施する県大会を、第12回中国地区公立小・中学校女性校長会研修大会に重ねて、6月に実施した。中国地区各県より100名の参加を得、校長の指導性を中心に熱心な協議がなされた。また、金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫先生より『みんなちがってみんないい。～金子みすゞさんのうれしいまなざし～』として講演をいただき、みすゞさんの詩を通して優しさや温かさを学んだ。県では、来年度の全国大会での分散会発表へ向けて、取組を進めているところである。

徳 島 県

徳島県阿南市立大野小学校長 服 部 千 鶴

平成24年度会員数は49名（小学校長42名、中学校長7名）であり、県内全ての小・中学校女性校長が会員である。そのうち、新任校長は3名である。女性校長の登用者数が年々減少してきている。優秀で活力ある女性教員が管理職登用への意欲をもてるよう魅力を伝え、支援していきたい。

本県では、年2回総会及び研修会・懇親会を開催し、会員相互の連携を図るとともに、女性管理職としての職能を高めるために研修の充実に努めている。本年度は、福井市で開催された全国研究協議大会に6名参加し、全国各地から集まった会員の方々と研究協議等を行い、貴重な時間を共有できた。各地で活躍中の先生方のパワーと推進力に刺激を受け、更なる飛躍を心に誓った。子どもたちの自立や幸せのために、女性校長として力強く芯の通ったリーダーとして研鑽に励んでいきたい。

香 川 県

香川県善通寺市立中央小学校長 貞 廣 美津子

本県では女性管理職は、全員「香川県女性校長・教頭の会」の会員である。本年度は、校長35名、副校長1名、教頭60名、行政職8名である。昇任、登用者は、校長4名、教頭10名であり、減少してきている。そのことも一因となり、管理職をめざす女性教員の減少が課題である。そこで、魅力ある女性管理職であるために、自らの職能の向上を図るとともに、後進の育成に努めている。

全体研修は、毎年5月に総会、研修会（本年度は義務教育課長の講話）、8月の学習会、OBも参加する2月の研修会（昨年度は日本銀行高松支店の初代女性支店長の講演）や懇親会等で管理職としての視野を広げている。また、県内8ブロックで、主体的に研修や親睦、情報交換も行っている。さらに、教育45団体が協力して開催する「かがわ教育の日」のつどいにも参画し積極的に参加している。

愛 媛 県

愛媛県松山市立西中学校長 小 椋 由紀子

本県の女性教職員指導者の会は、会員数181名（校長87、教頭62、行政職28、事務長4）、本年度の昇任者は13名である。学校統合による学校数の減少や管理職登用への意欲低下等が影響し、会員数はここ数年減少傾向である。女性管理職としての資質向上を図り、魅力ある教育活動を実践することにより、後進の育成を図ることが課題となっている。

県内4支部で、それぞれの地域の特性をいかした研修会や交流会をもち、職能向上をめざすとともに、会員の結びつきを深めている。県全体の研修会は年2回開催し、第1回は先輩校長玉井千恵先生の笑いヨガの講演、第2回は東京大学社会科学研究所教授玄田有史先生の希望学についての講演を行う。女性の幅広く学ぼうとするよさが、子どもの成長につながる研修を充実させていきたい。

高 知 県

高知県高知市立土佐山小学校長 片 山 す ま

本県公立小・中・特別支援学校の女性校長数は、37名（小32、中5）である。本年度の主な活動は5月に総会を実施した。県教育委員会次長の中山雅需様に講話をして頂いた後、今春退職された3名の女性校長さんのパネル討議を聞きながら、今後も校長としての資質を磨く必要性を痛感した。

8月には、夏季研修会を実施。いの町教育委員長であり染色・織物作家としても活躍されている山本眞壽さんの「染め、織りに生きる」との講演を聞き大変感動した。その後、実習を行い参加者一同楽しい時間を共有できた。

これからも、学校経営の円滑な運営のために、女性ならではの細やかな視点と洞察力を備えながら、資質の向上を目指していくことを確認した。今後は3ブロックに分かれての研修に努める。

福 岡 県

福岡県福岡市立飯倉小学校長 熊 谷 節 子

福岡県公立学校等女性管理職会は、福岡市・北九州市・市町村（6教育事務所）の会員399名により、管理職としての職能の向上と女性教員の資質向上をめざした研修を、企画・立案し推進している。

全体研修は2回実施しており、管理職研究大会（6月）と女性教員研修会（7月）を研究テーマに基づき、開催地区の特長を活かしながら、8地区が分担して行っている。管理職研究大会は教育活動・研修活動・学校経営の3分科会での実践発表と協議、女性教員研修会はパネルディスカッションと講演会を行い、内容の充実を図っている。そのために、年4回、各地区代表者会を開催して、研究大会と研修会の内容を検討し、企画・運営に関する審議を行うとともに、各地区の教育状況に関する情報交換を行っている。また、各地区においても独自に研修会を実施し、研鑽を積んでいる。

佐 賀 県

佐賀県伊万里市立伊万里小学校長 光 田 紀美子

本年度の佐賀県公立学校小・中学校女性管理職研究協議会の会員数は、校長39名、教頭46名、計85名（今年度9名の登用あり）である。昨年度数と比較すると、3名の増となっている。県内全小・中学校管理職に占める女性管理職の割合は、約17%である。

主な活動としては、管理職としての職能の向上と女性管理職としての更なる資質向上をめざして、年2回の全体研修会を開催（うち1回は、OB会「プラス会」との合同研修会）するほか、地区別研修会（5地区）を年2回から3回開催し、それぞれが趣向を凝らした活動を行っている。

研修の内容をさらに工夫し魅力ある研修会にしていくこと、そして、後に続く後輩女性管理職候補の育成を行うことが現在の課題であり、本会の目標である。

長 崎 県

長崎県諫早市立西諫早小学校長 道 越 貴代美

長崎県では、女性校長・教頭（指導主事等を含む）が全員加入して、長崎県公立小・中学校等女性管理職会を組織し、活動している。今年度の会員数は、校長 57 名、教頭 45 名、指導主事等 17 名の合計 119 名で、昨年度より 3 名減少している。しかし、登用者数は昨年度より多く、新任校長・教頭・指導主事等各 5 名ずつ、合計 15 名である。主な活動としては、毎年 8 月の夏季休業中に全会員が一堂に会し、総会・研修会を実施している。今年度は、校長による実践発表と、県教育庁義務教育課人事管理監による講義「これからの管理職員を育てる」を中心に有意義な研修ができた。また、退職の女性管理職員との合同研修会「なみち会」では、「未来へつなぐ『夢・あこがれ・志』の実践を探る」をテーマに基調提案とグループ協議を行い、参加型の活発な研修ができた。

熊 本 県

熊本県山鹿市立鹿北中学校長 野 中 米 里

本県の女性管理職は、校長 58、教頭 61、行政 15。学校統廃合により前年より 20 校減の中にも例年並みの登用ができています。しかし、校長について見れば、小学校 13.7%、中学校 3%にすぎず、未だ全国的には低位である。一方、教育研究発表をはじめ行事運営等々でのマスコミ報道により学校経営実践の一端が紹介されるなど、女性校長の活躍は多岐にわたり、その経営手腕の質の高さが評価されている。私たちもまたそれを自負し、誇りとしているところでもある。

県の女性管理職会としては OB 会との連携や行政機関の協力を得て年 3 回の研修を行っている。講演や実践発表を通して資質向上に努めるとともに、各地区における後継者育成に力を注いでいる。

今後とも現代的課題に応え得る魅力ある会として、個々はもとより組織力の向上に努めていきたい。

大 分 県

大分県大分市立田尻小学校長 井 上 裕 子

大分県の会員数、校長 94 名、教頭 111 名、合計 205 名で、小中学校管理職の総数における割合は 24.17%である。その数は年々減少しており女性管理職の育成が喫緊の課題となっている。

7 月には第 45 回九州地区女性管理職研究協議会大分大会を、388 名の会員の参加により盛大に開催する事ができた。3 つの分科会での研究協議、「管理職をめざす女性教職員を育てるには」と題したトークセッション、講演等盛りだくさんな内容であったが参加者の協力により中身の濃い 2 日間となった。またこの研究大会に向け取り組んできた大分県会員の絆を一段と深める事ができた。

今後とも夏季研、冬季研、ブロック研を通して職能を高める研修、真の男女共同参画社会の実現に向けた研修を 2 本の柱として組織力の強化に向け取り組んでいく予定である。

宮 崎 県

宮崎県宮崎市立檜北小学校長 上 野 由美子

本年度の宮崎県公立学校女性管理職研究会会員数は幼稚園・高校籍も含め校長 29 名、教頭 49 名、計 78 名である。本会員における中学校籍の割合は 17%、高校籍は 4 %と少ないが年々増加しており、女性管理職の職能が評価されてきた結果だと考える。本研究会は年 3 回の全体研修会と各地区別研修会の他に、女性教職員研修会という名称だが、昨年度から男性教職員にも門戸を開き、年 5 回、講師を招いての勉強会を開催し、会員の資質向上と後進の育成に努めている。

本年度は九州地区公立学校等女性管理職研究協議会大分大会の発表県である。全会員で研究発表を支援するため、研究主題・副題を大分大会と同じにし、3 分科会主題について各支会毎に研究を深め、冬季大会でその研究を発表した。研究主題に迫る質の高い研修を行うことができた。

鹿 児 島 県

鹿児島県南九州市立別府中学校長 松 村 美智子

本年度の会員数は 149 名（校長 54 名、教頭 95 名）で、小中学校管理職に占める女性管理職の割合は約 9 %だが、統廃合による学校数減少もあり、女性に限らず登用が厳しい状況になっている。本年度は、研究主題を「あしたをひらき、心豊かでたくましく生きるかごしまっ子を育成する学校教育の推進」と設定し、全体研修会（年 3 回）と地区別研修会（12 地区で年 2 回以上）を通して研究を推進し、実践の成果を研究会誌「さざなみ」（34 号）にまとめ、会員の資質向上を図っている。

次年度は、九州大会で小学校長の発表、全国大会で中学校長の発表が決まっており、それに向けて準備を進めている。昨年度から「来てよかった『さざなみ会』」を合言葉に、気軽に集える研修会「次回もぜひ参加したい」と思える研修会を目指し、活動の充実と会員相互の研鑽に努めている。

沖 縄 県

沖縄県糸満市立高嶺小学校長 武 内 典 子

本県の女性管理職研究協議会の平成 24 年度の会員数は、校長 78 名、教頭 52 名、指導主事 7 名、合計 137 名である。主な活動として、女性管理職の資質の向上を図るため、年 2 回の全体研修会を開催するほか、各地区においても趣向を凝らした活動を行っている。

5 月総会・全体研修会では県教育委員会義務教育課長の講話をいただいた。1 月の全体研修会では校長・教頭の実践発表や県外研修報告を行い、意見交換し、職能意識を高め、会員相互の連携の強化を図っていきたいと考えている。また、研究会誌発行予定でもある。入会者が年々減って厳しい状況ではあるが、今後も会員の資質向上を目指し、魅力ある活動を行っていききたいと思う。